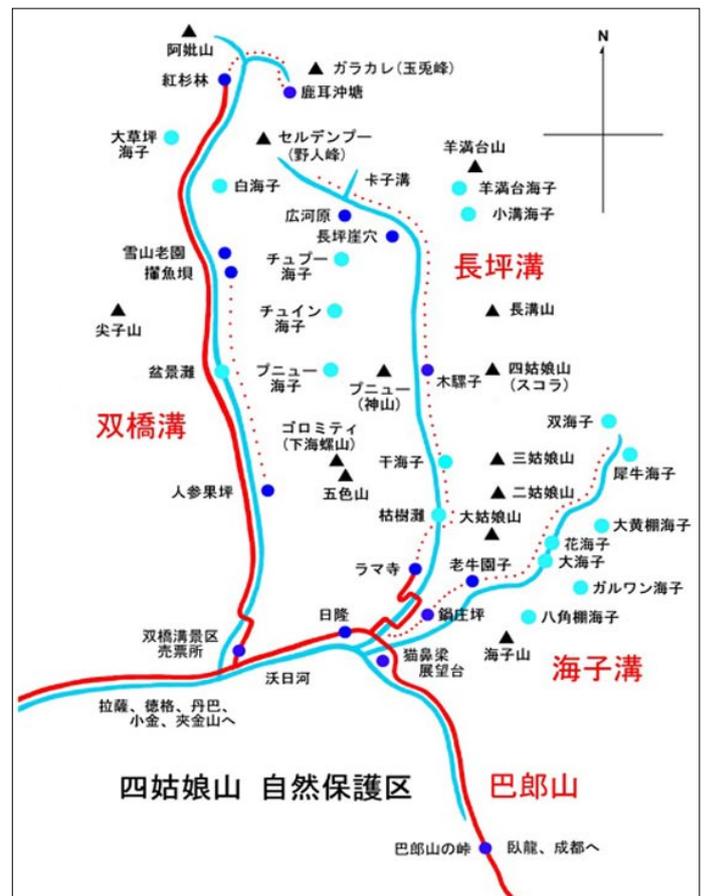


mount001 主峰6250mの朝焼け

ヒマラヤ横断山系に重なる東チベットには6000～7000m級の山が数多く聳え、これらの山は古代から神が宿る所として信仰されています。四姑娘山もその1つで、写真mount001は主峰6250mの朝焼けです。このような神々しい姿を見ると、撮影している時にお祈りしたくなります。

四姑娘山の麓に在る日隆の町では、陰暦5月4日(今年は陽暦6月18日)にこの山神を祭って踊りを捧げたりその年の豊潤を祈る風習(煙祭献馬節)が今も続いています。この神に捧げる踊りを「鍋庄」と言いますが、その踊る場所が町の東側の四姑娘山南稜の末端に在る鍋庄坪の丘です。(鍋庄坪は漢名で地元のチベット名は神台を意味する「dantsosuda」です)ただ現在では殆どの踊りが観光客を意識して今風にアレンジされていて、古来からの伝統的な踊りは少ししか見られません。(昨年8月に'わんりい'の方々が丹巴でご覧になった踊りは古来からの伝統的な踊りですが、地域によって微妙に違います)写真dmount094は民族衣装



を着てこの踊りに集まったチベット族の人達で、写真mount907はお祈りの様子です。

お祈りの回る方向は、ギャロン(註1)全体ではボン教(註2)の左回りが多数派ですが、チベット仏教ゲルク派(註3)の影響が強い四姑娘山界限では写真のような右回りが少なくありません。

陰暦5月4日頃は降雨量が多い時期で、鍋庄坪の丘に花々が咲き始める時期でもあります。そして四姑娘山に降ったこの雨は山谷の緑やヤクの喉を潤しながら流れ落ち、幾つもの支流を経て長江に注ぎます。



dmount094 民族衣装の人々

### 註1：ギャロン：嘉絨(Jiarong)

中国四川省甘孜州丹巴県やアバ州馬爾康県・金川県周辺のあたりの地域。大川氏のHP「ヒマラヤ横断山脈の女王谷」によれば、その名の語源はチベット語の「rGyalmorong」で女王の谷を意味する言葉に依るとのことです。

ここに住む人たちは中華人民共和国成立後の民族識別によってチベット族に属すると認定され、特にギャロンチベット族と呼ばれています。

商王朝の時代、青海省、甘肅省付近で放牧を営んでいた羌族が殷や秦の圧迫から岷江などの大河沿いに南下しその流域に定住するようになった人たちが祖先とも、モンゴルに滅ぼされた西夏王国から逃げてきた人たちの末裔という説もあり、古代から多くの民族が移住して先住民と融合し、今日に至っていると考えられており、チベット人とは異なる言葉話し、誇り高い民族のアイデンティティと独自の文化を伝えています。

### 註2：ボン教

チベットの宗教の一つで、シャーマニズム的な民族宗教から発しており、チベットのカム、アムド、西チベットや北ネパールのトルポに存在しています。古代にチベットを支配した吐蕃王朝の宗教でしたが、7世紀の仏教伝来以降は仏教と結びついた政権によって弾圧を受け、仏教化されました。中国本土では「黒教」と呼ばれ、日本でお寺のマークとして



mount907 お祈りの様子

知られている卍は本来ボン教の記号。仏教と対立し競合するうちにチベット仏教のニンマ派と区別がつきにくくなって、その違いは寺院の中を巡る際に右回りをする仏教徒に対し、ボン教徒は左回りする程度です。

### 註3：チベット仏教・ゲルク派

チベット仏教最大の宗派でダライ・ラマを頂点に頂きます。中国では「黄教」と呼ばれています。

